



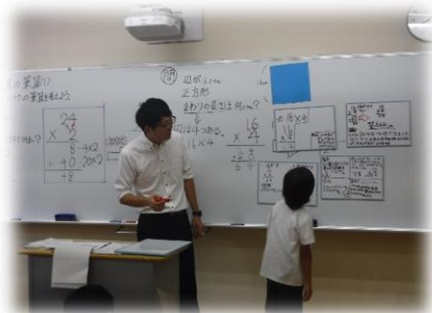
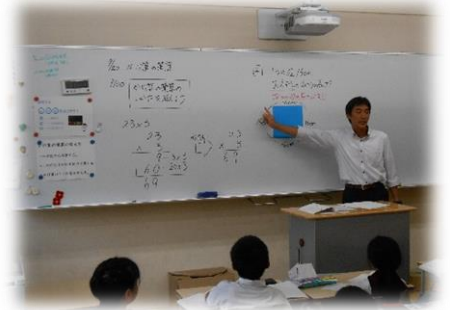
研究主題 「学ぶことを楽しむ！」

～文教大学附属小学校型 アクティブラーニング

学びの深化を目指して「自ら問い続ける子どもを育てる授業」～

今年度第三回目の校内研究を行った。今年度は「学ぶことを楽しむ！～文教大学附属小学校型アクティブラーニング 学びの深化を目指して「自ら問い続ける子どもを育てる授業」～を研究主題として研究を行ってきた。

第三回目は、今年度第3学年と第4学年の算数科において展開されている、2クラスを統合して3つのグループに編成し直し、1グループ20名弱の少人数制の授業を舞台に、大塚教諭、松川教諭、飯尾教諭が算数科『かけ算の筆算』を行った。



授業は「2位数×1位数の筆算の仕方について理解し、その計算ができる」というねらいにそって、前時までの繰り上がりのない筆算の計算から、繰り上がりのある筆算の計算の仕方を考えるという展開であった。「はやく」「かんたんに」「せいかくに」の算数の「は」「か」「せ」を意識させ、授業者がわざと間違えた筆算の方法から、子どもたちは正しい筆算の計算の仕方を考えていった。

講師の先生は、東京学芸大学附属世田谷小学校の稲垣悦子先生をお招きした。稲垣先生は協議会で、先生自身の実践を基にした自ら問い続ける深い学びへの導き方をお話して下さった。子どもが自ら問い続けるためには、子どもの素朴な疑問を生かした授業を作っていくと良いことがわかった。子どもたちができると思い込んでいることをできないと思わせ、子ども同士のズレから議論をさせることで、子どもが問いを作ることができることを伺った。また子どもへの問いかけ



についても、「なぜそうしようとしたのか（動機）」、「どのようにして気付いたのか（発想のきっかけ）」、「なぜそう言えるのか（根拠）」を問い続けることが、深い学びにつながることも伺うことができた。

今回、自ら問い続ける子どもを育てていくために、「なにを考えさせるべきなのか」改めて考えることができた。日々の学習の中にも活かしていきたい。

